

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	学遊館エール		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 15日		～ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2026年 2月 15日		～ 2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	2026年 2月 15日		～ 2026年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児の話を丁寧に聞き取り、気持ちに寄り添った支援を心掛けている。	子供だけでなく保護者の話も丁寧に聞き、双方の気持ちに寄り添った丁寧な支援を心掛けている。	利用児、保護者双方と話をしながら目標設定をおこない、事業所内でのより良い支援に繋げるためにスタッフ間でも情報共有を行っている。
2	電話やline（電話が繋がらない時）での相談や状況報告、必要に応じて家庭訪問・ペアレントトレーニング（養育の提案）も行っている。	保護者の気持ちに寄り添い、保護者のモチベーションを保ちつつ、養育についての相談に助言を行っている。	保護者の要望も取り入れながら目標設定を行っている。大きな目標設定だけでなく細かな目標設定も行いスモールステップで成功体験をたくさん重ねる事で自信に繋げる。
3	関係機関とも細かく情報共有を行っている。	相談支援事業所とも連携を行い、児童に必要なバックアップ体制を整えている。	必要時に会議の開催要請の提案を行っていく。進路に関しても考慮した支援を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援スタッフが限定されている。	放デイの人員や訪問へ行く予定の児童が、結果的に訪問を利用しなかった等の理由から、新たに訪問スタッフが増えなかった。 訪問支援スタッフが、兼任であるため業務が増えている状況がある。	非常勤のスタッフに学校教諭経験者、保育士経験者が在籍しているため、今後の訪問支援を担ってもらおう。または専属の訪問支援員を配置するなど考慮していく必要がある。
2	事業のPRが十分できていない。	学校や保育園等への事業の有用性の説明を行う機会が持てていない。	関係機関との連携により、事業説明を行う機会を設けると、必要と思われる保護者に向けての事業説明を強化していく予定。
3			